



せんしょう苑
望洋荘 便り

第111号
平成25年
2月発行

成長へのチャンスは笑顔で

社会福祉法人さく福社会

理事長 須田 混

笑顔と素直さは好機を招き、運を上昇させると言われています。思わず助けてあげたくなるのは、「笑顔を見せる」「愛嬌を感じさせる」「相手が話しやすい環境を用意する」などが出来る人に対してです。このような笑顔を見せるなどは誰にでも出来るし、極めて単純なことだが、とても重要な事だと思えます。笑顔で働く、でも、それを維持する為には、自分の人生を形作っていくための記憶をコントロールすることが大事です。

人柄・性格・個性となって表れているのが記憶であり、その人らしさだと言います。例えば過去に失敗経験があっても、「自分にとって意味があった」と受け止め、「良い記憶だけを残していくことが大切」と思えます。あの失敗が、と言う後悔の念は誰しもが持っているのです。しかし、そうした後悔の念に捉われていると、笑顔も無くなりますし、また明るい未来に繋がるとは考えられませんから。思うようにならないことや、辛いことに遭遇するのが人生です。その経験があるからこそ、今の自分があるのだと自己肯定していくことが大切です。どんな困難に遭遇しても「この経験が大

事」と思い、それを良い記憶として積み重ねていきたいものです。失敗には、不明瞭な要素も含まれています。それを単なる不運と見過ごさず、成長へのチャンスだと考えれば、周囲への配慮も生まれるでしょう。笑顔でひたむきに努力する姿は、「何とか自分が力になれないか」と応援者を出現させます。先に希望を見据えながら、自ら考えて行動しましょう。「あの辛かった出来事のおかげで成長できた」と振り返られる強さは、生じたことを自分の糧にしようとする積極性をももたらします。向上の素材は逆境の中に凝縮されているのです。

失敗の原因の多くは、小さなことを面倒がり、気づいていながら確認を怠ることにあります。新人の頃の慎重さや謙虚さを忘れ、「報告・連絡・相談」などの基本事項を疎かにすることが、大きな失敗を引き起こしてしまうのです。いたずらに失敗を恐れている、進歩も発展もありません。現状を打開するには、あえてチャレンジしなければならぬ時もあります。しかし、自信が過信、やる気が独断、慣れが慢心となつては、自らつまづく基を作るようなものです。常に、「自分は新人である」との謙虚さを忘れないようにしたいものです。

いま社会は、経験豊富な、頼れる笑顔を持ち続ける人材を求めています。自分の記憶をコントロールする努力を続ける姿勢が、より一層の成長へのチャンスに繋がるものと確信をしております。職員の皆さんに期待すること極めて大です。自分の健康に留意し、ご努力をお願いします。



節分(豆まき)

二月三日(日)午前十時より年男・年女の入居者様及び職員による豆まきを行いました。

年女で薄磯ユニット入居者、山際イクヨ様を先頭に、二階の居室・一階の居室・事務所・医務室・地下の当直室・厨房の順に鬼を追いかけながら、楽しそうに豆まきをしました。その後、美味しい豆を食べました。さすがに年の数は、お腹をこわしますので皆様ほどほどに食べられていました。



いわきサンシャインマラソン出場

第四回いわきサンシャインマラソンが二月十日(日)に開催されました。職員の武藤恵さん・松本彩花さんが五キロコースに、山名隆広くんが一〇キロコースにそれぞれ出場しました。成績は：精一杯力を発揮する事が出来たそうです。来年も挑戦する予定です。



「NHKはまなかあいず」

二月二十一日(木)午後六時より、「NHKはまなかあいず」のコーナーで、震災の混乱の時FMいわき様が放送で、望洋荘の現状とみなさんに協力を呼び掛けて下さったことにより、多くの方々から救援物資が届き助けられたと須田施設長がその時の様子を話すシーンが放映されました。当施設を取材したNHKいわき支局、記者、坂本直也様から感想を頂きました。

『命をつないだコミュニティ放送』

去年の夏、いわき市に赴任してきた私が気になっていたところがあります。小さなフジオ局「FMいわき」です。市内出身の私は、震災当時住んではいみせんでしたが、大変だった状況を家族や親戚から聞いてよく知っていました。そうしたなか、テレビや新聞が伝え切れない生活に密着した情報を伝え続け、市民生活に役立ったのがFMいわきでした。

FMいわきの取材を続けるうちに、命をつないだ放送がいくつもあつた事を知りました。その一つが望洋荘でした。震災発生から六日目、津波で孤立状態となった望洋荘から救援を求める電話を受け、直ちに行われた放送「入居者様は動けず避難所に行けません」「少しでもよいので食料や紙おむつの提供をお願いします」放送はすぐさま市民に届き、次々に食料やストローブなどが届けられたといえます。行政やマスコミも機能不全に陥った未曾有の大規模災害。しかし、そうしたなかで、被災した方々と身近なメディア、そして市民の助け合いがうまくつながり、困難を乗り越えたすばらしいケースだと思えます。



節分「豆まき」

二月三日(日)節分の「豆まき」を行いました。

入居者の皆様にも豆を持ってもらい、豆まきを手伝って頂きました。

鬼に扮し、ユニットを闊歩して回る職員めがけて、入居者様方は「鬼は外、福は内」と元気よく声を上げながら、豆を投げられておりました。

古来より、節分には季節の変わり目に生じる邪気を鬼に見立て、鬼を追い払うことによって、邪気を退けるといふ意味が込められています。職員一同、入居者様方が季節の節目を健やかに過ごされますようにとの願いを込めて、入居者様方と共に豆まきに参加させて頂きました。

また、「節目を分ける」との名の通り、こうした時事的な行事は季節の変化を特に感じさせるものであり、入居者の皆様の日々の生活に良い刺激や活気を与えるものと思えます。さあ、元気に暖かい春を迎えましょう。



餃子&たこ焼きパーティー

二月十二日(火)みまや西ユニットで誕生会を兼ねて「餃子・たこ焼きパーティー」を行いました。

今回の行事はユニットにたこ焼き器やホットプレートを用意し、テーブルの上で焼き上げることで、入居者の皆様に出来立て熱々のたこ焼きや餃子を召し上がって頂くこうと企画したものです。

入居者様方はホットプレートから香ばしい匂いをあげるたこ焼きや餃子を、焼きあがるのは今か今かと心待ちにしておられ、普段あまり口にされることのない出来立てのたこ焼きや餃子に舌鼓されておりました。「おいしい?」と職員が尋ねると、「あなたもどうぞ」と勧められる様子も見られました。

入居者の皆様に本当に美味しくそくに食べて頂いた事で、職員一同、心の励みとなった一日でありました。

【バレンタインデー】の起源

今月は、女性が好きな男性にチョコレートを贈る「バレンタインデー」があります。皆様はその起源と歴史をご存知ですか？バレンタインデーの起源は、ローマ帝国の時代にさかのぼります。ローマでは、二月十五日が豊年を祈願するルペルカリア祭が始まる日でありました。当時の若い男女は別々に生活していましたが、祭りの前日に女性は自分の名前を書いた札を桶に入れ、翌日男達はその桶から札を引き、札に書かれた名前の女性と祭りの期間パートナーとして一緒にいることが定められていました。そして多くの人々がそのまま恋に落ち結婚したそうです。しかし当時のローマ皇帝は、愛する家族を故郷に残した兵士は士気が下がるという理由で、兵士の婚姻を禁止していました。そのためキリスト教司祭だったバレンタインは、秘密で兵士達を結婚させていましたが、そのことが皇帝に知られ捕らえられ処刑せられてしまいました。この処刑の日が二月十四日であったことから、この日が恋人達の日、「バレンタインデー」になったということです。

日本のバレンタインデーの歴史は、一九七〇年代後半頃から、製菓会社やデパートなどが競ってバレンタインデーのイベントを行い「女性が男性に愛を込めてチョコレートを贈る」という日本独特の文化が定着したと言われています。本来は、女性が男性に贈るという制限もなく、贈る物もチョコレートに限定されていないようです。反対に男性から女性に贈る「ホワイトデー」は日本で発祥したものです。これらのイベントは製菓会社やデ

パートなどが営利目的に発信したものが、いつしか若い女性を中心に広がったようです。ちなみに国内のチョコレート売上の約二〇%がバレンタインデーに占めるそうです。

【三月の行事予定】

望洋荘

三月三日(日) 午前十時より
「ひな祭り」

【三月のお誕生会予定】

望洋荘

三月三日(日) 勿来ユニット
新川 和 男様 (七八歳) 誕生会
三月七日(木) 永崎ユニット
阿部 たか様 (九七歳) 誕生会
三月七日(木) 豊間ユニット
石川 ツルヨ様 (八八歳) 誕生会
三月九日(土) 四倉ユニット
吹谷 千代様 (八七歳) 誕生会
三月十日(木) 四倉ユニット
小松 仙松様 (八二歳) 誕生会
三月十七日(日) 豊間ユニット
星 敏子様 (八四歳) 誕生会
三月二十四日(日) 薄磯ユニット
高木 ウン様 (九一歳) 誕生会
三月二十九日(金) 永崎ユニット
財津 シツ様 (九七歳) 誕生会
三月三十日(土) 薄磯ユニット
政井 一郎様 (八三歳) 誕生会
三月三十日(土) 勿来ユニット
鈴木 カツヨ様 (八四歳) 誕生会

【三月の行事予定】

せんしゅう苑

三月三日(日) 午後二時三〇分より
「ひな祭り お茶会」各ユニット
三月十五日(金) 午前十一時より
「ガストで食事会」みまや西ユニット
三月十六日(土) 正午十二時より
「鍋パーティー」みまや西ユニット

【三月のお誕生会予定】

せんしゅう苑

三月十三日(水) みまや 西ユニット
岡田 トキ様 (九一歳) 誕生会
三月二十日(水) みまや 南ユニット
関野 ふく様 (九一歳) 誕生会
三月二一日(木) みまや 西ユニット
鈴木 みよの様 (九〇歳) 誕生会
三月二四日(日) みまや 東ユニット
山崎 ヨシ子様 (九六歳) 誕生会

編集後記

『せんしゅう苑・望洋荘』便り
平成二十五年二月二十八日発行
発行所 いわき市平豊間字合磯三十九番地
社会福祉法人 りんさく福祉会
地域密着型介護老人福祉施設 せんしゅう苑

電話 (0246)38-6331
介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246)55-7373